

**2011 日本学生トライアスロン選手権
競技規則（ローカルルール）と主要注意
必ず熟読の上大会に臨むこと**

■はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合（J T U）競技規則に加え、「日本学生トライアスロン選手権ローカルルール」を設定して競技を行う。なお、特別に指定された項目以外はすべて共通とする。

■大会運営において

円滑な学生大会の運営を行うために、時間厳守とする。時間などの変更の伝達においては大会本部前に掲示する。選手は各人の責任で伝達事項について注意を払うこと。遅刻などにおいては厳重なペナルティーを課すこととする。

■競技規則・備品について

- ①参加の選手は、水温 20 度以下の場合ウェットスーツ着用義務とし、21 度以上の場合原則として着用不可とする。（水温、ウェットスーツの着用については、当日公式掲示板に示す。）
- ②バイクはロードレーサーであること、J T U 競技規則を参照。ロードレーサーでなければ出場できない。
- ③新機材、新製品、手作り品の使用については、受付時に申告し、個別審査を受ける。
- ④ペインティング・タトゥーシール等は禁止とする。
- ⑤DHバー（アタッチメントバー、肘当てパットを含む）の使用は禁止し、通常のドロップハンドルのみを使用を許可する。DH バーを使用している場合、出場できない。
- ⑥ホイールは J T U 競技規則に従い、ディスクホイールの使用は禁止する。また前輪はスポーク構造をしているもののみ許可する。
- ⑦バーエンドのキャップが外れている場合、大会の出場を認めない。ただし、バーエンドをテープでふさぐなどの措置をうけたバイクについて、エンドキャップについては適格とする。
- ⑧ナンバリングは両腕、両足に行う。ナンバリングの場所には、ホットバルム、ワセリン、日焼け止めクリームなどを塗らないこと。またナンバリング後に塗る場合もナンバリングが消えないように塗ること。
- ⑨ナンバーベルトを使用する場合はランスタートからの着用でも構わない。ただし、バイク競技においてナンバーベルトを使用しない選手は、事前にレースナンバーをユニフォームに直接、前後に取り付けておくこと。
- ⑩レースナンバーは必ず審判が視認できるように装着すること。レースナンバーの装着

に不備があるとみなした選手にはペナルティや失格等の処分を下すことがある。

- ⑪レースナンバーが紙製で外れたり、破けたりすることがあるため、ナンバーベルトの使用を奨励する。ユニフォームにつけたレースナンバーが、外れるまたは破けた場合、審判・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてもよい。
- ⑫表面および内部に割れがあるヘルメットでは出場できない。ヘルメットのチェックは各自で行い、異常がみとめられた場合は代替りのものを準備すること。
- ⑬**ストックホイールは大会前日の受付で預け、登録したホイールのみ認める。なお、設置は運営側で行う。**ストックホイールは1人前後 1 セットまでとし、大学内・チーム内などの共有を認める。
- ⑭トランジション開放の際、バイクやその他競技備品の回収には選手本人があたり、ゼッケンもしくはナンバリングを係員に提示すること。
- ⑮救護にかかっているなどのやむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。

■ウェアのロゴ表示について

学校名・大学チーム名、および市販されている状態でのメーカー・ブランド・ショップ名のロゴ表示のみとすることを推奨する。

■伝達事項の告知について

大会期間中のローカルルールやコース、時間の変更等の伝達事項は、大会本部前に掲示する。大会本部周辺に放送で呼び掛けることもあるので、選手は各人の責任で伝達事項について注意を払うこと。

■ペナルティについて

「タイムペナルティ（TP）ルール」はコース状況により、審判の裁量により適用される。競技中に適用を受けなかった場合でも違反行為が認められた場合はレース後にペナルティを受けることがある。

■主要注意

- ①バイクコースの下見は大会前日までとし、その際**ヘルメットの着用を義務づける。**
- ②競技中でも交通ルールを厳守すること。
- ③観客、プレス、主催者関係者、地域住民に注目されていることを認識し、良識ある行動を心がけること。**暴言を吐くなどスポーツマンシップに相応しくない行動が見られた場合、当該選手は失格とする。**
- ④バイクコース内・トランジションエリア内にスペアホイールを置くことや、競技者以外の者が競技者に競技中にスペアホイールを受け渡すなどの援助行為を禁止とする。

- ⑤競技の最中に競技者以外の者が競技者に対し補給物資や装備の受け渡しをした場合、受け取った選手は直ちに失格とする。
- ⑥コースを離脱した場合、元の地点に戻れば競技を再開することができる。
- ⑦リタイヤする場合には、本人が大会本部もしくは審判員に申し出る事。
- ⑧校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。ただし、フィニッシュ時のフラッグの受け渡しは許可する。
- ⑨熱中症には十分に注意し、大会前日に水分を多めにとるなど事前に対策をとっておくこと。競技中、審判員及びドクターが危険と判断した場合は競技を中止させることがある。

■スイム競技

- ①競技中に救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。
但し、一度救助された競技者は競技を再開することはできない。
- ②危険回避、体調保全のために競技を停止し、ロープ等に掴まって小休止をとる事ができる。但し、これらを利用して移動することは出来ない。
- ③先頭の選手がバイク競技を一周回終えるまでにスイムアップできない選手に対しては、スイムアップ後競技の停止を宣告する。スイム競技の継続は、これを認める。
- ④スイムエントリー時間を厳守すること。スイムエントリーとはスイムスタート地点でアンクルバンドを受け取り、計測エリアを越えるまでを指す。これに遅れた選手の競技への参加は認めない。
- ⑤スイムスタートは砂浜に設けるスタートゾーンからとする。
- ⑥選手は設置されたブイで仕切られたコースを定められた順路で回らなければならない。これに反しショートカットを行った選手に対しては、ペナルティまたは失格などの措置がとられることがある。

■トランジション

- ①ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかり締めること。バイクフィニッシュ後はバイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- ②バイクをラックに掛けるときは、ラックナンバーが手前に見える向きのサドル掛けとする。尚学生大会においては本人が最後までラックにかけなければならない。
- ③レース用具は通路や他の選手の妨げとならないように置くこと。マーシャルは選手の公正な競技を確保する目的で、選手の用具を移動させることがある。
- ④前輪の先端が指定された「乗車ゾーン」に入ってから乗車し、また、指定された「降車ゾーン」の中で降車しなければならない。
- ⑤トランジションエリアへの入出の際は混雑が予想されるので注意すること。
- ⑥ウェア、レースナンバーを整えてからバイク、ラン競技に移ること。

■バイク競技

- ①今大会はドラフティング走行を許可する。
- ②周回遅れについて…最後尾の競技者は、先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で失格となり、マーシャルの指示に従い、コースアウトする。
- ③コーナー地点では先行する競技者を優先する。後続の競技者は先行する競技者の優先コースに入ってはいけない。
- ④審判員からコーナー地点や落車などについて注意がなされることがあるが、これをよく聞き遵守すること。

■ラン競技

- ①キープレフトを順守すること。
- ②ランキャップの着用を推奨する。
- ③フィニッシュではウェアのチャックを締め、サングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- ④意図的な同着は認めない。
- ⑤一度フィニッシュした選手が再度コース内に入る事は出来ない。
- ⑥応援関係者および選手の、競技者への伴走を禁止する。

■メディア規制について

- ①大会当日に大会に関係するいかなる写真・ビデオなどの取材・撮影の際には、必ず大会本部の許可を必要とする。
- ②許可には身分証明と連絡先の提示を要する。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。
- ③大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない。

■その他

- ①今大会は競技者以外のものが競技者に対して順位などの情報を与えることを認める。
- (*) 下線部は特に重要箇所であるので、十分に認識するとともに、JTU競技規則も熟読の上で大会に臨むようにしてください。競技ルールについての質問は、大会前日に行われる開会式の競技説明会で受け付けます。それ以前の質問は大会六日前までは日本学生トライアスロン連合にメールで問い合わせして下さい。また、変更などがある場合も競技説明会でお知らせします。